

**AF430/CFD
Instruction Manual**

DTS INSIGHT CORPORATION.

AF430/CFD
Instruction Manual
No. M2383QG-01

改訂履歴

版	発行日	変更内容
第 1 版	2017.06.19	新規発行

<目次>

1. 製品概要.....	3
1.1. AF430/CFD の各部名称と機能.....	4
2. CAN インターフェース.....	8
2.1. コネクタ(EXT PROBE 1)	8
2.2. 信号表	9
2.3. インターフェース回路タイプ	10

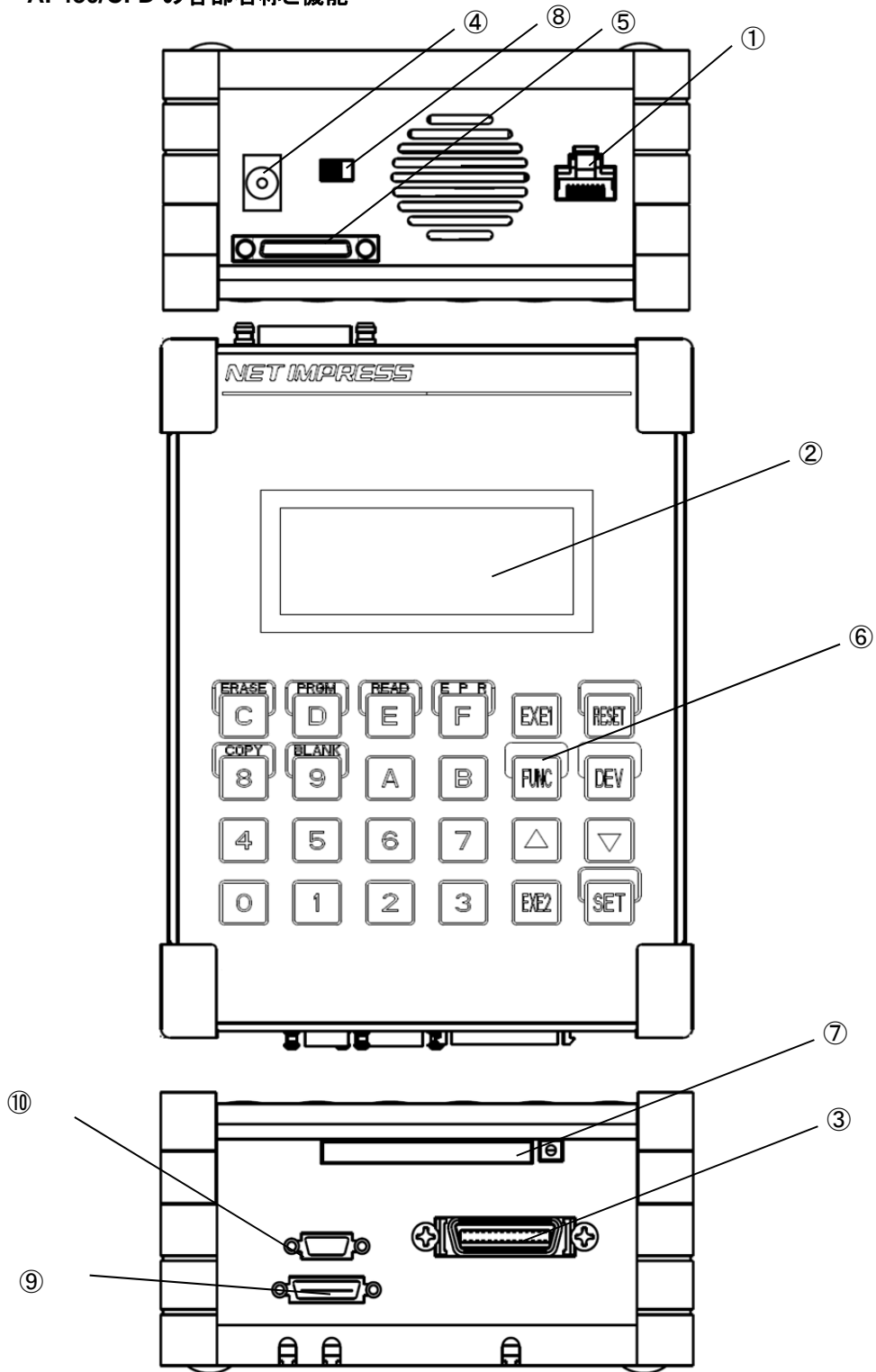
1. 製品概要

AF430/CFD (NETIMPRESS next) は CAN/CAN-FD I/F を用いたフラッシュメモリプログラミングが可能なデバイスへの書込みをサポートします。

※本マニュアルは、NETIMPRESS next の CFD モデルの差分情報について記載しておりますので、その他の共通項目については、NETIMPRESS next の本体マニュアルをご参照ください。
(下記の Web サイトよりダウンロード頂けます)

https://www.dts-insight.co.jp/support/support_netimpress/top/index.php?m=Search

1.1. AF430/CFD の各部名称と機能

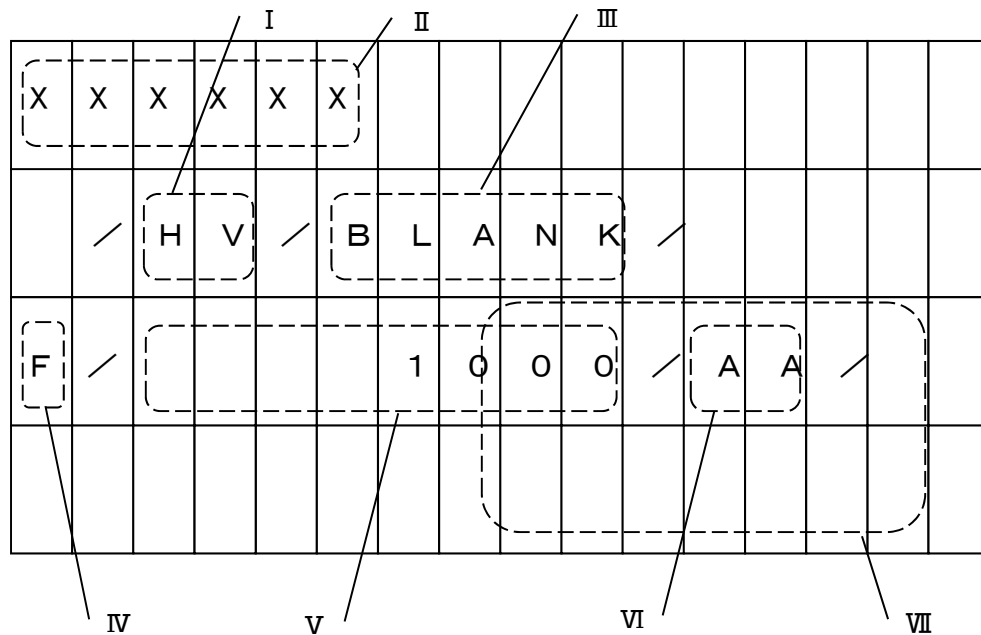


① ETHERNET

Ethernetに接続するためのコネクタです。

② LCD

各種情報を表示します。



I. プログラミング電圧印加表示

プログラミング用の高電圧印加中を表わします。RESETキーで解除できます。

II. マイコン型名

書き込み対象のマイコンを表示します。

III. デバイスファンクション表示

実行中のデバイスファンクションを表示します。

IV. ファンクション表示／モディファイビット表示

実行中のファンクション あるいは バッファメモリのデータが変更されたデータであることを表わします。

先頭に“F”と表示されている場合、選択・実行中のファンクションが表示されます。

“D”と表示されている場合、デバイスファンクション選択・実行中であることを示します。

“M” と表示されている場合、キー入力により変更されたデータであることを示します。

V. アドレス表示

フラッシュメモリアドレスの表示やデータキーの入力モニタ表示、各種メッセージを表示します。

VI. バッファメモリデータ／エラーコード

バッファメモリデータやエラーコードを表示します。

VII. ROMデータ／サム値

フラッシュROMのデータやバッファメモリデータのサム値を表示します。

③ TARGET PROBE1

ターゲットシステムと接続するためのプローブを接続するコネクタです。

④ DC12V

本器専用の AC アダプタと接続するためのジャックです。

⑤ DIO PROBE

Digital I/O による制御を行う場合にこのコネクタを使用します。

⑥ KEYBOARD

【 0～F 】

16進データキーで数値を入力します。8、9、C、D、E、FはDEVキーとの併用で、各デバイスファンクションを指定するキーとなります。

【 RESET 】

動作の中断や、エラー表示を消すときに使用します。同時にリモート動作の解除も行われます。

【 FUNC、DEV 】

16進データキーと併用して、各種動作の設定をするコマンドキーです。

【 ▲ ▼ 】

アドレス値の増減を実行するキーで、アドレスに対応するバッファメモリと ROM のデータを同時に表示します。FUNC動作ではパラメータの区切りとしても使用します。

【 SET 】

FUNCキー、DEVキーなど各モードやコマンドの設定や実行に使用します。バッファメモリ内のデータ変更にも使用します。

【 EXE1, EXE2 】

様々なコマンドを割り当てて使用することができます。

⑦ **CONTROL MODULE**

コントロールモジュールを挿入するスロットです。本器専用のコンパクトフラッシュでないと正常に動作しません。

⑧ **POWER**

電源スイッチ

ON : 電源ON

OFF : 電源OFF

⑨ **EXT PROBE1**

ターゲットシステムと接続するためのプローブを接続するコネクタです。

⑩ **BCR PROBE**

バーコードリーダーと接続するためのプローブを接続するコネクタです。

2. CAN インターフェース

「/CFD」オプションのNETIMPRESS nextでは、CAN/CAN-FD インターフェースをサポートしていません。

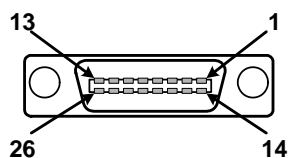
(注意)

ケーブルセレクト設定 (Function CD0) を「自動選択 (CABLE SELECT)」としている場合、ターゲット・インターフェース (TARGET PROBE1) にインターフェース・ケーブル (AZ410, AZ411, AZ412, AZ413) が接続されていると、CAN/CAN-FD インターフェースは無効となります。

CAN/CAN-FD インターフェースを有効とする場合はターゲット・インターフェース (TARGET PROBE1) からインターフェース・ケーブルを取り外すか、ケーブルセレクト設定 (Function CD0) を「CAN 優先 (TARGET PROBE 2)」としてください。

2.1. コネクタ (EXT PROBE 1)

勘合面から見たコネクタのピン配列



HDR-EA26LFYPG1+
(本多通信工業)

2.2. 信号表

CAN/CAN-FD インターフェース側入出力信号の説明を以下に示します。

PIN No.	Signal Name	definition	I/O	Type (*3)
1	GND	GND	-	-
2	/TRES	負論理のリセット出力(オープンコレクタ出力)	O	D
3	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
4	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
5	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
6	VBAT	K-LINE 通信用電源入力	I	G
7	SBD	K-LINE 通信用信号線	I/O	G
8	TAUX	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
9	TAUX3(TVpp1C)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
10	/TICS	ターゲット電源制御用	O	C
11	CANH (*2)(*4)	CAN 通信用の CAN_High (High Speed CAN/CAN-FD)	I/O	F
12	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
13	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
14	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
15	TRES	正論理のリセット出力	O	B
16	TVccs (*1)	ユーザー電源入力(ユーザ電源監視用)	I	A
17	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
18	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
19	WDT	ウォッチドッグタイマ出力	O	D
20	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
21	TAUX2(TRW)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
22	TAUX4(TVpp2C)	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	C
23	TMODE	出力端子(コントロールモジュールにより定義が異なります)	O	E
24	CANL (*2) (*4)	CAN 通信用の CAN_Low (High Speed CAN/CAN-FD)	I/O	F
25	reserved	予約済み信号線です。接続しないでください	-	-
26	GND	GND	-	-

(*1) ライタ内部でターゲット電源監視を行う場合のみ使用します。

最大引込み電流 $I_{cc(max)} = 500\mu A$

(*2) 入出力電圧範囲 : CAN 通信電圧レベル

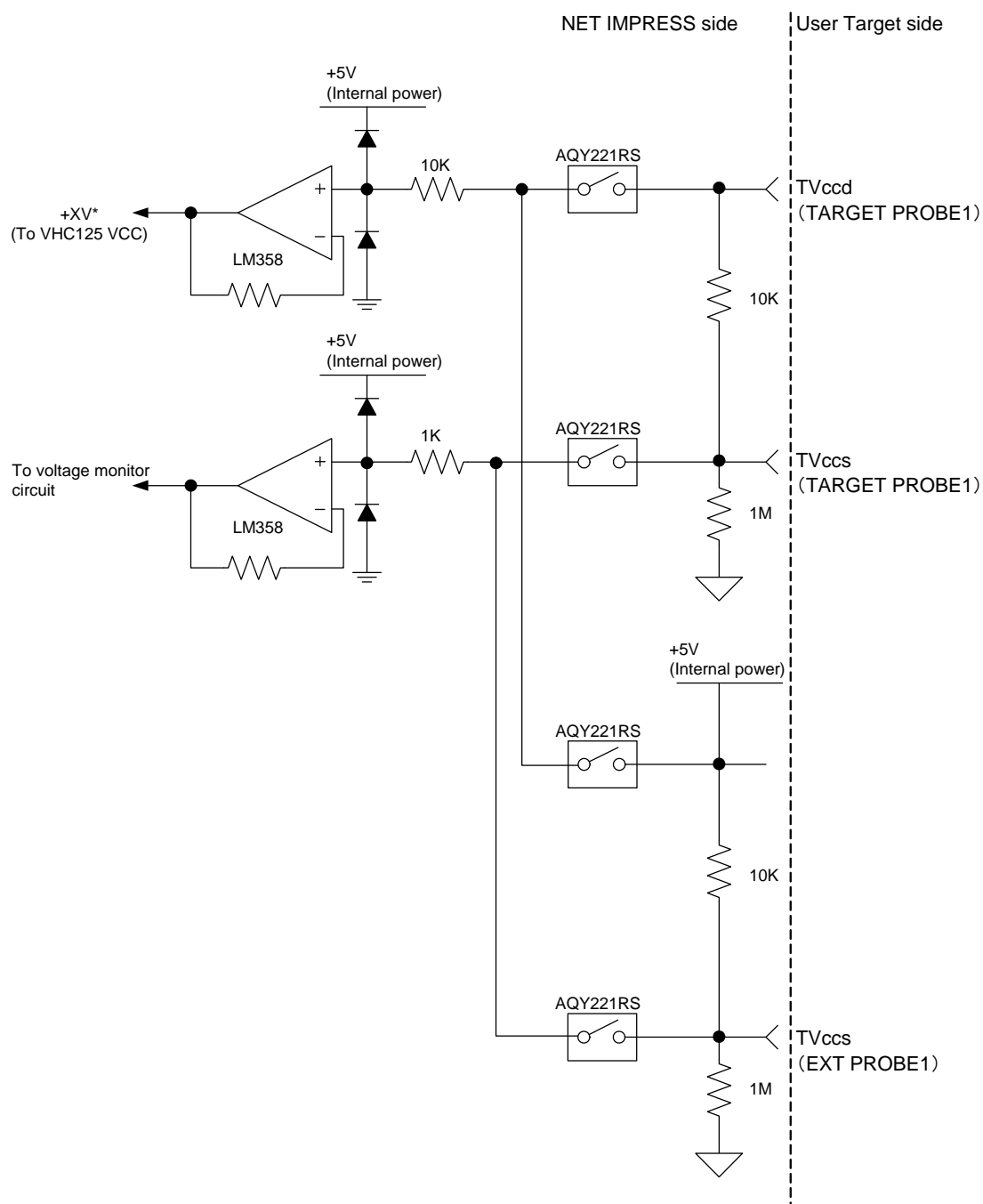
(*3) 信号線の入出力回路タイプを示します。詳細は次ページ以降を参照下さい。

(*4) 終端抵抗のデフォルト値はオープンです。終端抵抗は各コントロールモジュールにてオープン/60Ω /120Ωに変更可能です。詳細はコントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。

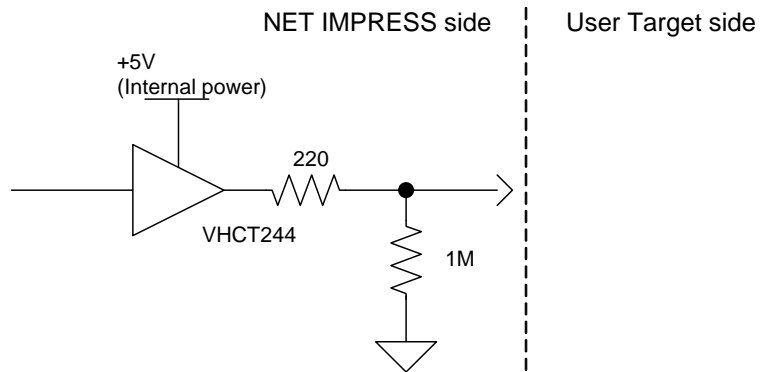
コントロールモジュール毎の信号定義につきましては、各コントロールモジュールのマニュアルをご覧ください。

2.3. インターフェース回路タイプ

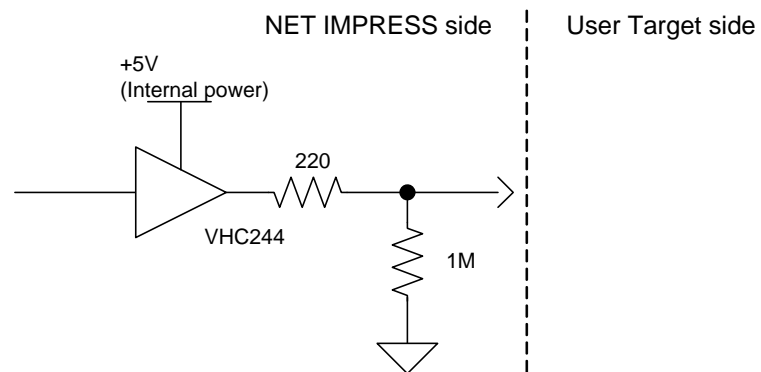
【 Type A 】



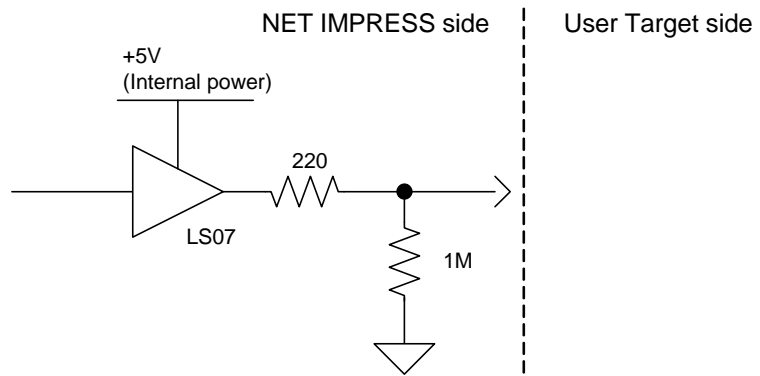
【 Type B 】



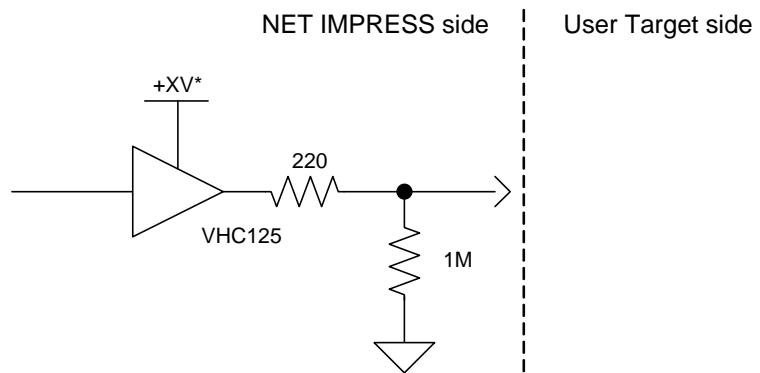
【 Type C 】



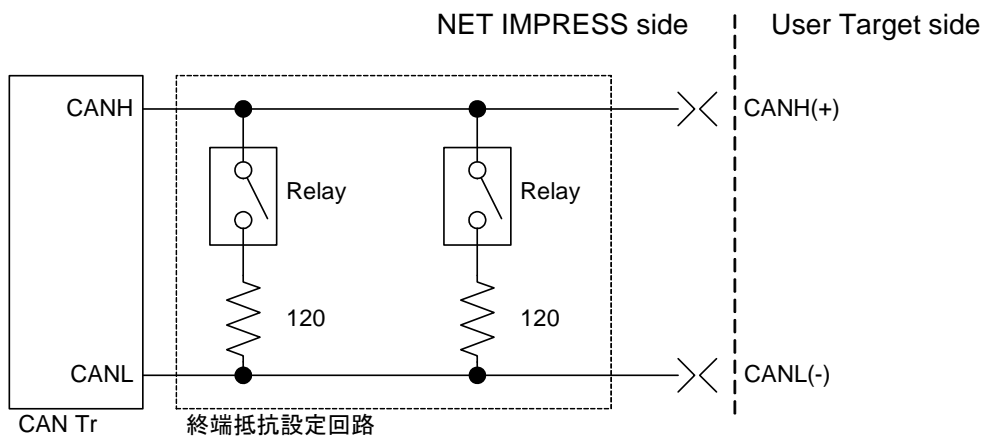
【 Type D 】



【 Type E 】



【 Type F 】



Relayの初期状態は“OFF” (OPEN状態: 終端抵抗なし) となっています。

【 Type G 】

